

初めて AT 互換機 (DOS/V 機) を自作してから 8 年あまりの歳月が流れ、今までに自作したマシンの数は延べ台数 (マシンの内部まるごと交換も含む) にすると 50 数台ぐらい (正確なカウントはもう不可能です (^_^;)) には軽くなるはずですが (^_^;)。

なぜそんなに多くのマシンに関わったかと言いますと、台数が多くなった理由の大半は私が顧問をしているメカトロニクス部の生徒たちに組み立て方と調整の仕方を教えてきたからです (^_^)。

それらの経験からの教訓を以下に簡単にまとめると、

- ① パーツを購入する際は、多少の値段の差よりも初期不良交換などが安心してできる店から買うこと。場合によっては数千円の差でも安心できる店の方がよいこともある。
- ② パーツを選ぶ時は雑誌の記事に惑わされないで、信頼できる知人や店員の話をよく聞き、少しでもトラブルが少ないものを選ぶこと。
- ③ ケースはデザインにこだわらず機能性と作りのよさを重視すること。
- ④ 新型のパーツで値段によって性能の差が恣意的につけられているもの (CPU や Video Card) は、我慢できる範囲で最もコストパフォーマンスの高いものを買っておき、それでもどうしても我慢できなくなった場合のみ、1~2 年後に信頼できる中古店 (ソ〇〇ップなど) で中古の値ごろになった高性能パーツを買うこと。
- ⑤ HDD やメモリーは多いに超したことはないが、そこはちょっと冷静になって一番値ごろ感のあるものを容量と性能のバランスよく考えて購入すること。ただしメモリーに関しては多少高くても、値段のせいで容量を少なくしなければならなくなつたとしても一流メーカー製にしておいた方が無難である。



① については昨年秋に話題になった某家電量販店の進出の影響もあってか、事秋葉原に限って言えば、古くからあるコンピューターショップの店員の質は格段に向上しているようなので、以前のように知識は確かにあるが客を小馬鹿にしたような態度の店員とか、知らないなら正直に知らないと言えればいいのに「知ったかぶり」ばかりする全く信用できない店

員とか、この人は「丁寧語」ってものを知っているのだろうかというような「ずっこけた会話」を平気で客と交わす店員とかは激減しているようなので、最近は無責任な心ない一部のマスコミ関係者のおかげで、すっかり「秋葉原」のイメージが地に落ちた感はありますが、昔からある良心的な店の多くは健在ですので、諸事情で秋葉原から足が遠のいてしまった方も、また足を運んで見て下さい。かく言う私もこのところ月1回ぐらいのペースで秋葉原へ行ってはいるのですが、家族で出かけているのと、主にラジコンショップ巡りが多いので、あまりコンピューターのパーツショップへは足を運んではいませんが……（^^;）。

② については以前から申し上げているようにどんなにすぐれている雑誌でも、営利目的で作られているものである限りスポンサーの機嫌を損なう記事は決して書くことはできないということは明白な事実なので、「本当の事」を知るのは案外むずかしいことであるわけでして、一番いいのは信頼できる経験者から直接話を聞くことです。このあたりの事情はどんなにネット社会が進歩しても永遠に変わることがないと思います（^^;）。

ただ、①でも書いたように、最近は特に秋葉原の老舗などは店員の質がかなり向上しており、ツ〇モの黒い館などは各階ごとにパーツが整理されており、それぞれのパーツ（Video Card、Mother、ケースなど）に特化した専門の店員がいるので、結構頼りになります。



彼らが信用できるのは自分たちがコンピューターが好きで、実際に最新のパーツを使った経験を持っているらしい（??）ということです。

③のケースについてですが、設置する場所の制限ぎりぎりまで大きなものを選ぶことが重要です。できれば多少無理してでも設置場所を確保することに全力を注いで下さい（^^:）。どうしても設置場所を確保できない場合は最近はやりの Cube 型のベアボーンという手もありますが、その場合は主に発熱の問題から、パーツの交換としては一番その効果が期待できる Video Card でさえ増設はあらかじめおいたほうが無難です（^^;）。

特に最近の高性能なビデオカードの発熱のすさまじさは、ヒートシンクやファンなどの巨大化という外見だけでも十分うかがえると思います。

昨年の夏に高齢の母親の余暇の友として、親切で詳しい秋葉原の老舗であるツ〇モで AO OEN のベアボーンを店員の薦めに従って組み立てましたが、かつての同社のイメージからは想像できないほど品質がよく、最新の 3D グリグリของเกมやフライトシミュレーターでもやらない限り、私が使ってもいいかもしれないと思ってしまうほどの性能でした。

仕事やインターネットしかコンピューターを使わない方は、もうこれ以上の性能は必要ないと思います。コンピューターの現行機種はかなり性能が上がっており、ワープロやインターネットだけをやるなんて、とてももったいないことで、大げさに言えば、すぐそのポストへ手紙を出しに行くためだけにフェラーリやポルシェを買うようなものです（^^;）。

せっかく高性能なコンピューターを手に入れたなら、ぜひ後述のシミュレーターなども体験して見て下さい（^^）。

ケースの作りに関してはさすがに最近ではケース内部の仕上げの悪さから手を切ったりけがをしたということは聞かなくなりましたが、パーツ類の取り付けに特殊な部品や特殊なネジを利用した構造になっているものも多々ありますので、そのあたりは購入前に実際に現物を自分の目で見てみることをお勧めします。



④に関しては、そもそもコンピューターのパーツの中古というものは、信頼できる中古部品取扱店で買うか、信用できる人間から直接買うことができるのであれば、新品よりも初期不良などの不安がなく、しかも値段も安いというお買い得なものも多く、コストパフォーマンスを追求するのならば、中古部品も視野にいれておくとよいと思います。

なぜなら中古でパーツを売るとなるとマニアが多く、特に高性能なパーツの中古ほど、最初から中古で売ると考えているマニアが使っていた場合が多く、付属品などもうまくすると開封すらしていない場合もあるからです。マニアは次々と新型のパーツへ買い換えまですから、かなり状態のよい中古を買うことができます（^^）。

§ ふらふらっとフラッシュメモリー

前回にご紹介した USB メモリープレーヤーは、実はほとんど USB メモリーとしてしか使っていなかったのですが、最初は重要なデータを入れて、もし消えたら取り返しがつかないので恐る恐る使っていましたが、ほぼ1年あまり使っていてトラブルらしきものは1度もなかったもので、それまで数年間重要なデータの運搬はコンパクトフラッシュが中心だったのですが、身の回りすべてのマシンにリーダーが備わっているわけではないので、急ぎのときは USB メモリーの方がお手軽ということもあり、次第に USB メモリーの出番が多くなってき

ました (^^;)。

そうすると、まず書き込み読み込みの速度が気になり始め (高解像度の写真の転送には結構時間がかかります)、多機能 USB メモリーより、USB メモリー専業で高速な信頼性が高いものを使ってみることにしました。

知り合いのコンピューター販売店の H さんからは、「データが消えたというクレームがまだそれなりにあるので、重要なデータの保存は USB メモリーだけにしない方がいいですよ」というアドバイスを受け、しばらくはコンパクトフラッシュと併用していましたが、ここ数ヶ月は常に持ち歩いているのは USB メモリーだけです (^^;)。

とはいってもやはり不安なので、同じものを2つ持ち歩いて、ミラーリングのような保存を心がけてはいますが…… (^^;)。

今のところ2005年11月から3ヶ月あまり使用していますが、ファイルが消えたとかのエラーらしきものは確認されていません。ただ、SecureLockWare とかいうセキュリティソフトも同時に使い始めてみましたが、急いでいるときはパスワードの確認に手間取ってイライラする (認識されるまでのタイムラグも CPU パワーに左右されるような気配も感じます) ことは、まあ安全のために仕方ないと割り切るにしても、私のように2本にミラーリングのようにしている場合、手元で2本同時に差し込める USB のジャックがあればいいんですが、前面には1つのみというものも多いので、同じデータを2本のメモリーに書き込むためには当然抜き差しを繰り返すことになるのですが、急いでこの作業を行ったりするとふぐあいが生じることは残念ながらあるようです。ふぐあいに巻き込まれると、パソコンを再起動せざるを得なくなり、急いでいるときにラビリンスに連れ込まれることになります (^^;)。



デザイン優先のケースだと相当小型の USB メモリーでさえも、マシンの裏側でないと差し込めなかったりすることがあるので要注意です。自作機、ベアボーンでこのようなことは経験ありませんが、メーカー製のおしゃれな機種ほど要注意です (^^;)。

私が現任校で現在主に仕事で使用している某大手メーカーのコンピューターも「デザインなんて考えているのか？」というようなビジネスタイプの省スペース機ですが、せっかく前面に USB コネクターを2つも備えているのに、不必要なシャッターを付けたりしたせいか、アダプターを介さないとそのままではコネクターに届きません (^^;)。

それから USB メモリーが小型軽量化しているのは大変ありがたいことではあるのですが、どんな優秀なセキュリティソフトでロックを掛けたとしても、コンピューターに挿しっぱな

しにして忘れてしまえば身も蓋もないので、快適な読書と模型作りのために眼鏡をついに買わざるを得なくなった私としても人ごとではないので、抜き忘れて席から立ち去ってしまうことを防止するためのよいアイデア（伸びるキーチェーンみたいなものの片方を常に体に固定して、もう片方をメモリーに結びつけるなど）をただ今模索中です（^^;）

将来的には腕時計型とかの非接触型で、身につけたままでコンピューターが自動認識してくれるようなメモリーが主流になってくれることを切に願います（^^;）。

§ シミュレーターからリアルな世界に 2006

メカトロニクス活動がようやく軌道にのり、これからという矢先に過員で転勤せざるを得なくなり、新たな職場では未だに部活動は開業していませんが、準備だけは着々と進んでおり、一部の有志の生徒が毎日のように私のところへ来て、パソコンを組み立てたり、R/C シミュレーターを練習したりしているのが近況です（^^;）。



ラジコンヘリや飛行機は、環境さえ許せば大きくてパワーのあるものの方が安定しているので、トレーナーコードを使って2台の送信機を使い、初心者が誤った操作をしたら、先生側の送信機のみを有効にするという方法を使いさえすれば、より大きくてパワーのあるエンジン機の方が、初心者には楽に操作ができる（あまり大きくてパワーがあると恐怖心はその大きさとパワーに比例して増大しますが（^^;））のですが、この現在の横浜では夢のまた夢です（^^;）。



そもそも私がそれまで全く興味のなかった（自分が飛ばせるようになるとすら思わなかった）ラジコンヘリを始めた理由も、本当はラジコン飛行機をやりたかったのですが、住んでいる場所が場所なので（東京の都心の方がまだ埼玉や群馬、あるいは荒川などの河川敷まで近いので、横浜よりも飛行可能エリアへ行くのに楽です。最悪の場合、渋滞の首都高の往復になるので考えただけでいやになるので……（^^;））飛行機は無理だろうという判断からでした。

実際のところ、最初に秋葉原のア○ミで初心者用の最小飛行半径が最も小さいお手軽なラジコン機ということで薦められた機体を、メカトロニクス部の生徒や一部の有志の生徒たち



と初めて上永谷中のグラウンドで飛ばした（飛ばそうとした（^^;））ところ、半径50mはあったはずのグラウンドでしたが、旋回しきれず、1回目は校舎にぶつかり機体の前がつぶれ、何度も周りの木々にひっかかり（生徒たちが何とかバレーボールなどを使って器用に使って回収してくれましたが）、だんだんボロボロになり、舵が動かなくなりましたが、1日使ただけで捨ててしまうのはもったいないので、分解修理をほとんど考慮していない構造体を無理矢理分解して修理し、再生を計ったのですが、結局は実家に置いたままになっています（^^;）。

そんなこともあり、小さなスペースで確実に飛ばせるものということで、ラジコンヘリを選択せざるを得なかったわけですが、昔から一旦やろうと決意したことはカミナリがなくてもあきらめない（??）という性質を持った私は、周囲の反対を押し切りひたすら修行の日々を送り、何とか近所の公園でもヘリで旋回飛行までは安全に（??）こなせるようになったのですが、何かというかわれわれ教師に「因縁かな？」ともとれるクレームが渦巻く昨今、近所の公園で息子に教えているのでさえ妻は神経をとがらせている有様なのに、部活動として屋外でヘリをやらせるというのは……（^^;）。

思索に暮れる日々の中で、菅田中でひよんなことから知り合いになった鳥居さんのHP (<http://www.torisan-i.com/>) を見ていると……（@@）！。

「ナイトメア」という初心者でも安心して安全な機体が載っていることを発見したのでした（^^）V。

まあ何事もそうですが、ある程度の「腕」を持った人々に「簡単だよ（^^）」と言われてその気になって、より大きな挫折感を味わう（「簡単」なことすらできない自分に空しさがこみ上げてくる（^^;））ことは、「ある程度の「腕」を身につけた趣味の多さ」だけでは普通の人々に絶対負けない自信のある私としては「イヤ」というほど数限りなく経験してきたので、さすが



に「学習」しており、知り合いではあったのですが、すぐに連絡を取ることはせず、しばらくはHPを眺めているだけの日々が続いていましたが、運のいいことに昨年夏に機体のみを鳥居さんから譲り受け、さあ作ってみようと思ったら部品が足りず、メールを送り続けたのですが、なぜか届かず（後で知ったことですが、迷惑メール対策などでこちらのメールがうまく届かなかったようです）……と気がつけば冬の足音がすぐそこに（^^;）。

仕方がないので厚かましくも直接電話して足りない部品を注文し製作したのですが、初めてのEPP（発砲スチロールの一種？）が主成分（^^;）のため接着剤を買いに出かけるところから始めなければなりません（自宅にはかなりの種類の接着剤があるのですがさすがにEPP用はなかったので（^^;））。

当初はEPPは発砲スチロールの一種と聞いていたので、カッティングはホットナイフじゃないとうまくいかないのかと思っていましたが、EPPのカッティングは、まるで切れ味のよい包丁でサクサクとダイコンを切るような小気味よさで進みますので、普通の発砲スチロールよりはるかに楽です。強いて言えばカッターの刃の切れ味が直ぐに落ちるのが難点というところでしょうか？ただ、気のせいかも知れませんが、大きめのカッターを使用したほうが、鋭い切れ味が持続するようでした。

ラジコン飛行機をこのような「素材キット」から作るのは生まれて初めてだったので、よくわからないことだらけで、鳥居さんには下らない質問にずいぶん付き合わせてしまいましたが、なんとか「形」としてできあがったので、本当は翌日に清川村の広場で飛ばそうと思っていたのですが、はやる気持ちが押さえきれずに近所の公園でおそろおそろ初飛行させてみたところ……（^^）V、今までシミュレーターでしか経験したことのない光景が目の前に広がり、息子共々しばらく感動して声も出ません（ちょっとデフォルメ（^^;））でした。

鳥居さんのHPに書かれていたことはすべて本当でした（^^）。この「ナイトメア」を使えば、横浜でごく普通の広さの中学校のグラウンドで、「安全に」楽しく生徒にラジコン飛行機の操縦を教えることができることは確実です（^^）。



もちろんヘリコプターの方がはるかに狭い場所でもホバリングの練習までは十分にできますが、「安全性」ということになるとほとんどの構造体がEPPできていて翼長が75cm



あまりで全備重量が150gぐらいという軽さと、プロペラが「紅い豚」の主人公の乗っている飛行機のように翼の上に載っている構造なので、万が一の人身事故でもまず人を傷つけることはないし、慣れれば横浜市内の中学校の体育館の中でも飛ばすことのできる旋回性能のよさですので、「安全第一」で考えるならば、生徒たちに十分シミュレーターで訓練を積ませておいて、体育館の中だけで練

習させるという方法もとることができてしまうのです！。

この夢のない、虚像のはびこる時代に、何とか若い世代に明るい実態のともなった夢を追わせてみようという壮大な私のプロジェクト（見果てぬ夢（??））に「ナイトメア」という強力な助っ人が登場した次第です（^^）。

そう言うわけで冬休み中は、ほぼ毎日近所の公園で息子と人影の少ない時間帯を狙って「朝練」、「夕練（?）」をしていましたが、飛んでいるラジコン機に興味を示すのはほぼ例外なく中高年の男性で、小学生以下の子供たちが信じられないほど冷めていて、私には最近騒がれている「学力低下」などよりもはるかに大きな心の闇が子供たちを覆っているような気がしてなりませんでした。

私たちが子供のころは、たとい安物の駄菓子屋で売っている凧でさえ、よく風を捉えて上がっている姿を見れば、あまり関心のない子であっても、しばらくは見つめることは普通でしたが、映画「Back To The Future2」のようにすべての自動車が空を飛ぶようになっている時代ならいざ知らず、21世紀になっても相変わらず大多数の人々は地上をは這いずり回っているだけだというのは、公園の中を自由自在に飛び回るラジコン飛行機にかなり多くの子が全く関心を示さないという現代という時代は一体……（^^;）。





また、一番可愛げのない幼稚園ぐらいの子に至っては、息子がホバリングさせているラジコンヘリにどんどん近づいて来たので、「危ないからもう少し下がって見ていてね。」と優しく私が話し掛けたら、「危ないならやるなよ！」と、とても幼稚園ぐらいの子がおとなに向かって話す言葉とは信じられない捨てぜりふを吐くありさまで、今でも大まじめにその子供の親には、

仕事柄今後の参考までに（その子もいずれは中学生になるはずなので）ぜひ会ってみたい（話をする気には到底なりません）と思っています。

人間はどうがんばっても自然から与えられたありのままの姿では決して鳥のように飛ぶことはできないので、少しでも「純粋な心」があれば空を自由に飛び回る物体に対してもう少し関心があっても言いように思うのですが……。

現代は中高年のおじさんたちのほうが「少年の心」を持ち続けており、本当の少年たちは実体のない虚像に心を奪われてしまっているのでしょうか（??）。

実体のない虚像の脆さについては、いわゆる「ライブドアショック」がよい警鐘となってくれることを願ってはいますが……。

こんな時代だからこそ実際に手で触れる実物を自ら作って操作するという事は、非常に重要な意味を持っていると私は信じています。

最近では低価格で高品質な超小型電動ラジコンヘリがたくさん出回ってきましたし、シミュレーターもFMSというフリーウェアとコントローラーがセットになって1万円で買える（しかもUSB接続で実際のラジコンのコントローラーも接続可能）というものまで登場し、私が始めた5年前に比べて格段に敷居が低くなったので、この先の見えない夢のない時代に生徒たちに実体験のともなった本当の感動を与えるためにも、少しでも興味を持たれた方がいらっしやいましたら、ぜひ私のところへメール便等でご連絡下さい。申し訳ありませんが、不特定多数（??）が読まれるこの冊子に私個人のメールアドレスを掲載する勇気は私にはありませんので、ご面倒でも最初の連絡は市のメール便のみでお願い致します m(_ _)m。

